

令和7年度学校関係者評価結果報告

学校関係者評価

—学校関係者評価委員会—

さいたま市立高等看護学院、学校関係者評価委員会は「令和7年度学校運営評価」の評価結果に基づいて学校関係者評価を令和8年2月18日に実施いたしました。

1 学校関係者評価委員

	氏名	所属
1	志村 みのり	保護者
2	小久保 裕史	卒業生
3	岡嶋 浩志	外部講師
4	白井 光子	実習先：指扇療養病院
5	市川 智子	実習先：保健衛生局市立病院 看護部 副看護部長
6	坂口 達彦	実習先：保健衛生局市立病院 病院経営部 病院総務課長

2 学校関係者評価

カテゴリー	評価結果	学校関係者評価委員の意見
I 教育理念・目標	3.6	教育目標にある育てたい学生像等を見直したところはよかったと思う。検討し文言の修正がすでに終わっているのであれば評価点は3.6で妥当であると思う。委員会において評価・考察をするうえで、資料に教育理念や目標・目的を掲載してほしい。
II 学校運営	3.3	昨年度より評価点が0.1ポイント下がっている。学校運営において協働するという意識はもちろん大切だが、具体的な仕組みづくりが必要だと思う。評価点は3.3と他の項目より低めであるが、今後に期待したい。
III 教育課程・教育活動	3.5	インシデントに関しては、学生が報告しやすい関係や環境づくりが非常に重要であり、振り返りの方法は、教育や指導よりディスカッション形式の方が前向きなフィードバックになる。授業評価については教員各自が振り返るだけでなく、領域やカテゴリー別の教員チーム等で課題を検討したりする機会もあるということで、評価点は3.5で妥当であると判断する。
IV 学生の募集と受け入れ	3.4	学校説明会では、どの部分が良かったか、どこで入学を決めたのかという学生の意見が、次の説明会の参考や学院のアピールポイントになる。5月からの学校説明会で高校2年生に焦点を当てるのは良いと思う。入試に関しては、いろいろ情報収集をして入学選抜方法を見直したり形式を変更していると聞いた。これらをふまえて評価点は3.4で妥当である。
V 卒業・就職	3.4	国家試験の合格率に関する記述があるが、過去の合格率の表記があると比較して評価がしやすい。この項目について、今年度は試行錯誤している段階で、検討と考察が必要であるということが理解できた。引き続き学生をフォローしていただきたい。評価点は3.4とする。

VI 学生生活への支援	3.6	評価ポイントとしては昨年度と変わらないが、カウンセリングを手厚く増やしている。カウンセラーを外部から入れることによって、安心して学べる環境調整につながっていることは評価できる。評価点は3.6で妥当とする
VII 管理運営・財政	3.5	危機管理体制や学生の意見反映も考察どおりである。財政については適正な予算執行をしているということで特記すべきことはなく、評価点も3.5とする。
VIII 法令等の遵守	3.6	ハラスメントの相談窓口は教員だけではなく、事務職員やカウンセリングの先生も含めた対応が望ましく、「相談窓口の設置」と「安心して相談できる環境」が退学を予防する手立てになると思う。そのような取り組みが確認できたので、評価点は3.6とする。
IX 施設設備	3.6	来年度からデジタル教科書の導入を受けて、経済的な問題、スペックの問題、セキュリティの問題などいろいろな解決が必要である。今後も引き続き、導入時の細かな規約やルールを検討してほしい。評価点は3.6のままとする。
X 教職員の育成	3.4	授業参加や研究授業に多くの教員が参加でき、授業のリフレクションがきちんと行われた結果、教員の学びにつながった。今後はぜひ学会の発表にも注力していただきたい。昨年度より0.4ポイント上がり評価点が3.4と改善されたことは評価できる。
XI 広報・地域活動	3.3	広報・地域活動といった評価点が高いと、学生の意識が高まる、集客にもつながる、士気が上がるといった全体への波及効果も大きいと考えるが、今回の評価点が3.3というのはもったいない。将来的に奉仕活動や貢献活動の評価を高めていくことは学校にとってもメリットは大きいと考える。

<総評>

「学校運営評価」の自己評価点は全体的に適正だと思う。「学校運営」の項目では具体的な仕組みづくりの必要性を考察し、「卒業・就職」の項目では学生への対応について検討を重ね試行錯誤していることから、それぞれの項目に対して課題に取り組んでいることもうかがえる。

近年、看護学生を確保することは厳しい状況であるが、今後も引き続き積極的に取り組んでほしい。